

オノマトペの詩・『たべもの』発問例

(号令)

①『オノマトペ』という言葉の確認

故意に様々な音を立てる。

- ・教室のドアを開ける
- ・大きな音を立てて歩く
- ・黒板を力強く消す など

教員：「今、先生が様々な音を立てました。どんな音がしましたか。」

児童：「教室のドアを開けたときに、がらがら と音がしました。」

「歩いたときに、どすどす と音がしました。」

「ぼくは どしんどしん だと思ったよ。」

「黒板を消したときに きゅっきゅ と音がしたね。」

教員：「みんなが言ってくれように音を言葉で表したものを『オノマトペ』といいます。音だけでなく

「お星さまがキラキラ輝いている」の「キラキラ」や「ニコニコ笑顔」の「ニコニコ」などのように、様子を表す言葉も『オノマトペ』といいます。

②授業の見通し

教員：「今日は、中江俊夫さんという方が作った『たべもの』という詩を使って学習していきます。」

(空欄のある詩のプリントを配布する。)

③詩について気づいたことの発表

教員：「詩を見て、何か気づいたことはありますか。」

児童：「四角があって、書かれていないところがある。」

「ほこほこ とか つるつる とか音が書いてある。」

「オノマトペが書いてある。」

「文の下には 食べ物が書いてあります。」

教員：「そうです。この詩では、文の上がオノマトペで、下は食べ物が書かれています。この詩を完成させましょう。」

めあて：オノマトペの感じを想像して、『たべもの』の詩を完成させよう。

④空欄を埋める

教員：「もこもこ さといも」の次にくる「ほこほこ」というオノマトペで表された食べ物は何かだと思いますか？」

児童：「にくまんかな。」

「さつまいもじゃないかな。」

教員：「中江さんは ほこほこ 「さつまいも」と考えました。でもね。違う食べ物だと考えた人もいますよね。それは、その人にとっての『たべもの』という新しい詩になります。違ったからと消さないで、四角の下に中江さんの考えた食べ物を書けばいいですよ。」

教員：「それでは、そのあとも空欄がありますね。一人で考える時間を設けます。5分経ったら隣の人と相談していいです。」

⑤意見を出し合って詩を完成させる

教員：「それでは、詩を完成させましょう。もし、自分が書いた食べ物が中江さんの考えた食べ物と違っていたとしても、間違いではなく、自分自身の『たべもの』の詩となりますから消さないでくださいね。」

教員：「もこもこ さといも、ほこほこ さつまいも、はりはり だいこん、ぱりぱり…？」

児童：（答える）

教員：「中江さんの『たべもの』の詩が完成しました。みんなで詩を読みましょう。」

児童：（読む）

⑥オノマトペを使って詩を作る

教員：「中江俊夫さんの『たべもの』の詩を参考に、みなさんで新しいオノマトペを使った詩を創作しましょう。題名は『かあさん』です。どんなオノマトペがいいでしょうか。」

児童：「にこにこ かあさん」

「ぶんぶん かあさん」

「ぐーぐー かあさん」

「いらいら かあさん」

教員：楽しいオノマトペの詩ができましたね。みなさんで『かあさん』の詩を読みましょう。

児童：（読む）

教員：「授業のまとめをします。」

まとめ：同じ音でも、人の感じ方によってオノマトペが違います。また、同じオノマトペでも、思い浮かべるものが違います。

教員：「プリントを裏返して、名前と振り返りを書きましょう。」